

# がん患者さんの治療と生活を 口腔から支援する歯科医師に！

## 診療科としての人材育成のポイント

がん患者さんの口腔には、がん治療中はもとより、時には治療終了後も様々なトラブルが高頻度で生じます。口腔の問題は患者のQOLに直結するだけでなく、円滑ながん治療の妨げともなるため、がん医科歯科連携による口腔管理による支援は、安全で円滑ながん治療の遂行のために今や必須のものとなりつつあります。

国立がん研究センター中央病院の歯科では、日本最多の診療実績を有する High Volume Center という環境を十二分に活用し、がん口腔支持療法全般の幅広い診療経験をつむことが可能です。がん治療に生じる全ての口腔内合併症に対するエビデンスに基づいた歯科の介入・具体的な支持療法、またがん治療後や療養中～終末期の患者の口腔管理など、がん治療開始前から終末期まで、あらゆる状況でのがん口腔支持医療を研修し、がん専門病院で歯科支持療法を担う歯科医師になるために必要なすべての知識と技術を習得することができます。また、院内技工室にて頭頸部がん術後の顎顔面補綴や、頭頸部放射線治療時に用いる放射線治療補助の口腔内装置（スパーサーなど）などの作成も多く経験することが可能です。

これからの病院歯科では、がん口腔支持医療は必須のスキルとなります。様々な病期・病態のがん患者さんに対して、可能なかぎり適切な歯科介入を提供できる、がん口腔支持療法のエキスパートをともに目指しましょう。熱意のある若手歯科医師の皆さんをお待ちしています。

## High Volume Center ならではの豊富な臨床経験が積めます

がん治療中の口腔有害事象に関する症例が多いため、がん口腔支持療法全般の幅広い診療経験をつむことが可能です。がん治療開始前の予防的歯科介入（診断、治療）、がん治療に生じる全ての口腔内合併症に対するエビデンスに基づいた歯科の介入・具体的な支持療法のみならず、がん治療後や療養中～終末期の患者の口腔管理など、がん治療開始前から終末期まで、あらゆる状況でのがん口腔支持医療、当院の周術期口腔管理のシステムにあわせた歯科介入を研修できます。

あらゆる状況でのがん患者さんへの歯科介入が適切に提供できる、がん口腔支持療法のエキスパートを目指して頂きます。



- ・ High Volume Center ならではの豊富な臨床症例数
- ・ 研修希望者のニーズに合わせた研修コース
- ・ 希望者には臨床研究活動の支援が可能

## 希望者には臨床研究活動の支援が可能です

当科では、がん治療中の口腔有害事象に関する臨床研究、基礎研究を行っております。希望する方には研究活動の支援（フィールドの提供や、研究内容の相談など）を行ないます。また学会発表、論文執筆等の活動の機会も確保されています。



歯科外来

- ・ 歯科診療スタッフ
  - 歯科医師 : 5名
  - 歯科衛生士 : 5名
  - 歯科技工士 : 1名
  - 歯科受付 : 1名
- ・ 歯科診療ユニット 4台
- ・ 年間のべ患者数 14,187人 (2019年度)
- ・ 歯科医師臨床研修制度 臨床研修協力施設

## 直近で当科が関わった臨床研究およびその論文

- ・ 放射線療法に伴う味覚障害の 唾液メタボローム解析による病態解明と治療への応用 (若手研究 (20K18493) : 2020 - 2022)
- ・ 唾液メタボローム解析によるがん口腔合併症のリスク因子解明、及び新たな治療法の確立 (基盤研究 (C) : 2017 - 2020) PLoS One. 2019 Aug 12;14(8) : Metabolomic profiling reveals salivary hypotaurine as a potential early detection marker for medication-related osteonecrosis of the jaw.
- ・ 化学療法や放射線療法に伴う口腔粘膜炎に対する新規口腔粘膜保護材の予備研究 (UMIN 試験 ID:UMIN000031921)
- ・ 食道癌患者への DCF 療法時における成分栄養剤の口腔粘膜炎症抑制作用の検討—エンターール非投与群を対照群としたランダム化第 III 相比較臨床試験 (EPOC2 study) — (がん集学的治療研究財団 : 臨床研究実施計画番号 [JRCT s 071180029]) Is Oral Mucositis Occurring During Chemotherapy for Esophageal Cancer Patients Correctly Judged? EPOC Observational Cohort Study : ANTICANCER RESEARCH 39: 4441-4448 (2019)
- ・ 緩和療養中のがん患者の口腔不快事象に対する、半夏瀉心湯と蜂蜜の含嗽による有効性の検討 (笹川記念財団 : 2017 年度 ホスピス緩和ケア助成金) 終末期がん患者の口腔内不快事象に対する蜂蜜併用半夏瀉心湯の含嗽による有効性の検討 Palliative Care Research/vol.14 : 3 号 ; 2019

研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 中央病院  
歯科

教育担当 :  
上野 尚雄

メールアドレス :  
taueno@ncc.go.jp

中央病院レジデントプログラム HP  
<https://www.ncc.go.jp/jp/ncc/division/cepcd/resident/index.html>



Facebook 中央病院 教育・研修情報  
<https://ja-jp.facebook.com/CancerEducation/>



## 当科で研修できる具体的な症例

### 1) 予防的な歯科口腔管理を包括的に経験できます

がん治療に伴う口腔に関連する有害症や晩期障害に対して、予防的な歯科口腔管理に力を入れています。

- ・ 外科手術前は、患者サポートセンター内の周術期管理チームをハブとして、手術前からの口腔ケア介入を systematic に行っています。当院のシステムに沿った外科周術期の口腔管理を担当医として、多数経験していただけます。
- ・ 薬物療法、頭頸部放射線治療に伴う口腔有害事象に対して、治療開始前からの予防的な歯科介入を積極的に行なっています。また治療後の晩期障害に対しても、造血幹細胞移植後の LTFU 外来からの定期的な歯科介入や、頭頸部放射線治療後の歯科管理・歯科処置の対応・相談を、放射線科医との連携のもとに行なっています。



がん治療前の口腔機能管理 (歯科外来)



移植病棟への歯科往診

### 2) がん治療に必要な歯科補綴装置の作成を経験できます

頭頸部がん術後の機能・審美的回復の一助として、専門の歯科技工士と協働しプロテーゼ (顎義歯) やエビテーゼの症例を担当することができます。症例数も症例内容も豊富です。また、インプラント併用の顎補綴の症例についても専任の歯科医師に帯同して経験することができます。



上顎癌術後の顎口蓋補綴



術後の嚥下障害に対する嚥下補助装置



無歯顎、皮弁再建症例インプラント併用の顎補綴



補綴物の作成は専門の歯科技工士と協働

頭頸部がん放射線治療のための各種口腔内装置の作成を経験できます。口腔周辺が照射野に含まれる症例は、全症例が治療開始前の歯科管理とともに、治療支援のための口腔内装置を作成しているため、症例数も症例内容も非常に豊富です。



軟口蓋腫瘍：放射線療法予定照射中の口腔内装置



左舌がん：小線源療法予定線源と下顎骨との距離を確保する口腔内装置



歯科技工室 技工物は年間 約 1000 例

## レジデントプログラム ■ 歯科

### § 推奨するコース

#### ●レジデント3年コース

対象者	採用時に歯科医師免許取得後3年日以降のもの
研修目的	がん専門病院で歯科支持療法を担う歯科医師になるために必要な、すべての知識と技術を習得する。
研修内容	がん治療に生じる全ての口腔内合併症に対するエビデンスに基づいた歯科の介入・具体的な支持療法、およびがん治療後や療養中～終末期の患者の口腔管理など、がん治療開始前から終末期まで、あらゆる状況でのがん口腔支持医療を研修する。
研修期間	3年間
研修の特色	がん口腔支持療法全般の幅広い診療経験を積むことが可能であり、がん専門病院で歯科支持療法を担う歯科医師になるために必要なすべての知識と技術を習得できる。がん患者に対して、あらゆる状況での歯科介入が適切に提供できるがん口腔支持療法のエキスパートを目指す。希望者には学会発表、論文執筆等の研究活動の機会も確保されている。
その他 (症例数や 手術件数など)	歯科外来患者数は年間でのべ13,000件以上 歯科技工作業は年間でのべ1,000例以上

### § 副次的なコース

#### ●レジデント2年コース

対象者	採用時に歯科医師免許取得後3年日以降のもの
研修目的	がん専門病院で歯科支持療法を担う歯科医師になるために必要な、すべての知識と技術を習得する。
研修内容	がん治療に生じる全ての口腔内合併症に対するエビデンスに基づいた歯科の介入・具体的な支持療法、およびがん治療後や療養中～終末期の患者の口腔管理など、がん治療開始前から終末期まで、あらゆる状況でのがん口腔支持医療を研修する。
研修期間	2年
研修の特色	がん口腔支持療法全般の幅広い診療経験を積むことが可能であり、がん専門病院で歯科支持療法を担う歯科医師になるために必要なすべての知識と技術を習得できる。がん患者に対して、あらゆる状況での歯科介入が適切に提供できるがん口腔支持療法のエキスパートを目指す。希望者には学会発表、論文執筆等の研究活動の機会も確保されている。
その他 (症例数や 手術件数など)	歯科外来患者数は年間でのべ13,000件以上 歯科技工作業は年間でのべ1,000例以上

### § その他のコース

#### ●レジデント短期コース

対象者：希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方  
期間・研修方法：6か月～1年6か月。歯科研修